

東広島みらい小学校

八本松小学校

六年

石井

明佳

二〇五〇年、東広島みらい小学校。ここでは、世界の一〇〇以上の国からやって来た子どもたちが、東広島市で育った子どもたちと一緒に勉強しています。

「東広島市でも、最高気温が四〇度を超える日が多くなりましたね。地球沸とう化と言われ、待った無しの問題です。自分たちに何ができるか、話し合いましたよ。」

広島大学の環境問題の専門家の先生が、こう切り出しました。この日は、地球温暖化にどう取り組むかについて、ディスプレイなど、する授業です。チマチョゴリやサリィなど、さまざまな民族衣装を着た子どもたちが、自分の国で起きている海面上昇といった環境の変化についてプレゼンします。発表を聞いた子どもたちは、テーブルを囲み、相手の意見に耳を傾けながら、それぞれのアイデアを出し合いました。

お昼になると、学校のみんなが食堂に集ま
ってきます。バイキング形式の食堂には、ハ
ラルフードなどさまざまな国の子どもたち
に配慮した食材も並びます。

みらい小中学校は、子どもたちの人数が減っ
て廃校になった校舎を活用しています。学校
は豊かな自然に囲まれ、午後からは、森の中
を探検して生き物を観察し、植物が環境に与
える影響についても学びます。授業が終わる
と、地域に出かけ、野菜作りや森づくりなど
を、地元のおじいさん、おばあさんから学ぶ
ことができる講座も開かれます。子どもたち
は、学校でAIを駆使して作った、ドローン
のタネまき機を試してみたりします。

これは、私が思い描いた未来の東広島市の
学校の様子です。東広島市の現在の人口は約
十九万人。このうち、一〇〇カ国以上から訪
れた外国人約九千人が暮らしています。市内
には、アメリカの大手半導体メーカーが工場
を構え、広島大学や製造業を中心とする企業

の立地などで、このように多くの外国人が
るので。外国人は年々増加しています。こ
の流れは今後も続いていくと思います。東
島市は将来、もっと国際色豊かな都市になっ
ていくと私は予想します。

東広島市のこの魅力を生かして、さまざま
な国の子どもたちが一緒に学べる、未来の学
校があるといいなと思いました。

私が考える未来の学校には、いくつかの特
徴があります。まずは、自由だということ
です。スマートフォンやタブレットなどのデジ
タル機器を持ち込み、学びを深めていきます
です。ディスカッションして、アイデアを練った後
は、自分たちでプログラミングをしたり、3
Dプリンターを使ったりして、物づくりに取
り組みます。地域のフィールドで試し、足り
ないところは修正します。自分のアイデアを
形にできることが、学びの大きな特徴です。

今の小学校とは、授業の雰囲気も違って
います。いろんな国の子どもたちが集まるので

会話は英語が中心です。授業は、子どもたちの対話で進みます。学校の中で英語をたくさん使うので、東広島市の子どもたちも自然と英語が話せるようになっていきます。さらに他の国の文化に浸る授業もあります。そして、東広島市の良さを生かした授業もふんだんにあります。海に面し、森もある豊かな自然で存分に学べます。世界トップレベルの研究をしている広島大学に出かけて、実験や研究をすることもできます。東広島市の交通の利便性を生かして、別の都市に出かけて学ぶ機会もあります。県外や海外に行くことで、東広島市の良さを再発見できます。その経験を生かし、観光スポットをどのように発信していくかを考える授業もあります。東広島市は、歴史や伝統を大切にしながら成長を続けてきた都市です。これまで磨かれてきた魅力が、きっと明るい未来の学校につながっていくと私は思います。